

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 放課後児童支援員の仕事は、子どもたちの支援はもちろんのこと、保護者による要望、苦情に対しても迅速かつ適切に対応しなければならないと感じました。そのため、職員同士の情報共有や情報交換、事例検討を行うことが大変重要だということが分かりました。子どもや保護者・職員に対してもコミュニケーションを意識して、建設的な意見を言い合える場づくりにもつなげていきたいと感じました。
- ◆ 家庭・学校・放課後児童クラブ等、属する場が複数ある子どもにとって、時間や生活の流れがスムーズで、負担ができる限り軽減される支援が必要である。そのためには、一人ひとりに沿った相互間の連携がいかに重要かを確認できた。放課後児童支援員としての資質と技能の向上に努め、社会的責任や職場倫理にみる重要な責務を自覚し、職員集団として、組織的に支援を行うなど、学んだことを心に留めて育成支援に携わる大切さを実感した。
- ◆ 前半の研修と通じるところが多くあった。子どもたちの健康観察、安全管理、環境設定、保護者支援など、日々の仕事内容は多岐にわたっている。この研修を通し、支援員として必要な知識やスキルを改めて学び、今後に生かせる貴重な機会になった。講師による実際の体験談も参考になった。職員同士のコミュニケーションを大事にし、情報を共有していきたい。研修での学びを生かし、子どもたちが笑顔で過ごせる場を提供できるよう努めていこうと思う。
- ◆ 児童が自らの意思で児童クラブに来ることが大切なので、心身のケアも行っていく必要があると理解できました。児童クラブの役割としては、忙しい保護者の代わりに児童を支援することなので、児童がクラブに来たがらないのは、児童の様子を見られていなかったことになる。心身の状態を把握して、児童の異変に気づくことが大切だと理解しました。
- ◆ 放課後の子どもを見守るだけと軽く考えて始めた仕事でしたが、支援員が子どもの成長にとっても重要な役割を果たしていることを学び、その責任を痛感しています。経験も浅く、子どもや保護者との関わりに迷うことも多いですが、先輩支援員に相談しながら、積極的に情報共有していくことが大切だと思いました。これからもいろいろなことを学びながら、子どもの育成支援の手助けが少しでもできればと思います。